



# 住民の「コミュニティ」を維持した取組に

大谷市議は一般質問で花月川の改修と市の街路整備の取組について、事業概要、コミュニティを維持したまちづくり、排水ポンプについて質問しました。

とを踏まえ、用地買収の住民との協議には市まかせでなく「国も共同した責任で取り組むのか」質問。

H29年の豪雨災害を受けて、200m、幅10mから12mに拡幅し整備します。今後は予備設計の地元説明の後現地測量をしてH31年度に都市計画街路の変更手続きを経て建物用地の調査に入ります。

部長は「一緒に事業をするのでスタンスとしては国と市の共同の責任で取り組む」と答弁。

吹上町の方向に河川護岸を1キロm、平均8m引き河道を拡幅しカーブを緩やかにします。これに伴い市道北豆田三郎丸線の街路を城町橋交差点から吹上交差点までの長さ1

大谷市議は「住民の要望を踏まえながら、丁寧な対応、コミュニティを維持する立場で取り組むのか」と質問。

大谷市議は「国は拡幅することでも水位が1m下がると言っただが、そのくらいでは丸山、吹上地区の内水氾濫は解決しない。常設の大きい排水ポンプが必要ではないか。検討するののか」と質問。

## 花月川の河川改修と道路整備



土木建築部長は「地域のコミュニティの維持の観点から関係者の意向を十分聞き取り、代替地の協議など丁寧な対応を考えている」と答弁。

部長「何らかの調整機能があるのではないかと国と話をしており今後検討する」  
上下水道局長は「国交省とは河川の改修があるわけですからその段階で常設についても今後検討する」と答弁。

## 吹上町、丸山町で住民説明会

6日吹上町で、7日丸山町で河川改修と道路整備の予備設計の段階の説明会がありました。どちらも会場いっぱい参加者でした。国交省久留米河川事務所と市の都市整備課の説明の後、住民から様々な要望意見が出されました。住民からは「逐次説明会をして情報を出してくれ」「残地は補償してくれるのか」「移転関係者は高齢者が多い。バラバラにならないように町内であいた土地を市や国で世話をしてくれ」「早めに排水ポンプを」など多数の意見がだされました。



国と市の説明を聞く住民



住宅に掛かる道路を見る住民

## 大谷敏彰市議が事務所開き

大谷市議は雨が降りこむ10日、吹上町の後援会事務所で「事務所開き」を開催しました。早朝より雨の中、地元をはじめ各地域から約100名の方が参加してくれました。

地元の伊藤高樹会長は「災害対策では地元は大きな課題がある。どうしても議員が必要。初挑戦のような気持ちで取り組もう」と呼びかけました。諫元正枝共産党日田市後援会長が「安倍政権の消費税増税を批判し、市議選と参議院選挙で勝利でストップさせよう。大谷市議を再び議会へ」と訴えました。

大谷市議は「6億4千万円の基金を活用し国保税の負担軽減。小中学校の給食費の無償化、災害に強いまちづくりを全力で取り組む。是非支持の輪を広げてほしい。」と決意表明しました。